

# 北海道森林管理局における森林・林業の普及

北海道森林管理局では、森林に親しむための「緑の普及」、試験研究機関と連携した「林業技術の普及」、民有林を支援する人材育成を通じた「林業知識の普及」などに取り組んでいます。

## 森林整備部技術普及課

### 森林に親しむための「緑の普及」

北海道森林管理局1階には、北海道産の木材をふんだんに使用した「ウッディホール」があり、森林・林業に関する情報発信や木材利用推進PRの拠点として、一般開放しています。木のプールやままごとハウスなどで遊べる木育コーナー、北海道の樹木紹介コーナー、図書コーナー、プロ野球選手のレプリカバット展示コーナーなどを設置し、大人から子供までくつろげる【木の空間】を提供しています。



開放時間 平日 10:00~15:00



ウッディホールでは、北海道森林管理局単独や関係機関と連携した木育イベントとして、「木のコースター」、「もくねんさん（おがくず粘土）」など木材を利用したワークショップも行っています。

また、森林や自然を身近に感じてもらえるよう、昨年度からVRゴーグルを用いた森林散策体験を始めました。このような取組を通じて、子供たちをはじめ、より多くの方々への森林・林業の普及啓発活動を行っています。

北海道森林管理局では、今年度、以下のウッディホール企画展、イベントの出展を予定しています。

### 《ウッディホール企画展》

日程	企画展タイトル
令和6年9月	市町村が取り組む森林・林業PR（平取町）
令和6年10月	木材利用促進月間等
令和6年12月	北大連携協定関連パネル展
令和7年2月	知床世界遺産パネル展

### 《イベント出展》

日程	イベント名（場所）
令和6年7月19日	カルチャーナイト（北海道森林管理局）
令和6年8月6日	夏休み子ども体験デー（札幌第一合同庁舎）
令和6年10月	道民森づくりの集い（サッポロさとらんど）
令和6年12月	木育ひろばinチ・カ・ホ（札幌市地下歩行空間広場）

具体的な日程や内容は、[北海道森林管理局 HP](#) でお知らせしています。ご確認ください。

## 試験研究機関と連携した「林業技術の普及」

### (1) クマイザサー斉開花の調査

一昨年当たりから道内各地においてクマイザサの斉開花がみられます。今年3月には、「昨夏の道内、ササー斉開花」の見出しで、新聞にも掲載され話題となりました。

北海道森林管理局では、森林総合研究所北海道支所と連携しながら、どの地域においてクマイザサが斉に開花しているのか調査しています。

道内各地の森林管理署等と連携して情報収集を進めるとともに、開花マップの作成にも取り組んでいます。

ササ類の開花周期は60～120年と言われており、道内では1970年代にチシマザサが斉開花した記録は残っていますが、道内のササ類の約半分を占めるクマイザサが大規模に斉開花したという記録は近年ではありません。

昨年までの情報からは、「北海道ササ分布図(1984.01豊岡洪・佐藤明・石塚森吉)」に示されるクマイザサ分布区域のうち、道北地方の中南部、道南地方の東部において、斉開花していることが分かりました。

また、まだ斉開花していないクマイザサについても、今年以降に斉開花する可能性もあるとのことでした。

昔の人は、ササの実を食していたという記録も古文書や古い新聞記事に残っています(ササはイネ科の植物なので、お米に似ているのかもしれませんが)。また、ササの実には野ネズミなどの森の動物たちの餌にもなるようなので、その影響も懸念されます。

また、ササ類は、開花すると枯死することが知られており、大面積でクマイザサが枯れている現状から、ササの葉を食料とするエゾシカへの影響や食糧不足となったエゾシカによる樹木への被害等の影響、ササが消失することによる林床の動植物への影響など、いろいろなことが想像されます。このため、今後も森林総合研究所北海道支所など関係機関と協力して、各種調査や開花マップの完成に取り組んでいきます。



クマイザサの花穂 (垂れ下がっているもの)



一斉に開花している様子



たわわに実ったクマイザサの実

## (2) 着花(果)調査

「採種園」は、植林するときを使う苗木を作るための種子を採取する森林です。花(球果)の着き具合は年によって大きく異なり、たくさん着ける年もあれば全く着けない年もあります。

北海道内にはトドマツ、カラマツ(グイマツ)、アカエゾマツの採種園がありますが、北海道森林管理局では、種子を採取する前の花(球果)の着き具合について、林木育種センター北海道育種場と協力して調査を行っています。これを「着花(果)調査」と言います。

調査方法は、今年着いた花(球果)を双眼鏡で確認し、定められた判定基準に基づき判断するという非常に地味な作業です。

花(球果)の着き具合によって採取できる種子の量も変わってくることから、非常に重要な調査ではあります。

たくさん花(球果)が着いている年は、笑顔で調査をしているのですが、全く着いていない年はどんよりして次第に会話も少なくなるという、年によって調査へのモチベーションが大きく変わる調査です。



トドマツの球果(灰色の上向きのもの)



カラマツの球果(緑色は今年の球果、茶色は昨年の球果)



着花(果)調査の様子



ドローンでトドマツを撮影(白っぽく点々と見えるのが球果)

近年、双眼鏡のほか、ドローンを使用して樹上から花(球果)の着き具合を調べる試行にも取り組んでいます。昨年は、稀にみる大凶作の年でしたが、これまでの調査結果では、凶作の翌年は豊作になることが知られており、今年の調査では、豊作が期待され楽しみな年になりそうです。

「本ページの写真提供」

森林総合研究所 林木育種センター

## 人材育成を通じた「林業知識の普及」

北海道森林管理局では研修等を通じて、若手から中堅にかけて段階的な人材育成を図ることで、職員の資質向上と森林総合監理士の登録促進に向けた取組を推進しています。

### (1) 民有林支援・連携推進研修

森林管理署等の若手や中堅職員を対象に、民有林支援の取組の重要性や必要性について理解を深め、支援・連携等に必要な基礎的知識の習得と普及を目的とした研修です。

本研修ではグループワークを取り入れており、研修生自身が、今後どのように民有林と関わりを持ち支援・連携していくべきか班員同士で考え、意見を共有し、その内容をプレゼンするカリキュラムとなっています。

このことにより、研修生の民有林支援・連携に係る意欲の醸成を図り、将来的に森林総合監理士(※1)を目指す人材確保に取り組んでいます。



(グループワークの様子)

### (2) 森林総合監理士育成研修

森林総合監理士には森林づくりに関する科学的な知見や、木材の生産から利用までの基本的な知識に加えて、これらを地域の振興に結び付けていく構想力や合意形成に必要なプレゼンテーション能力が求められます。

本研修では、この「技術力・構想力・合意形成能力」等の実践的な能力を、「森づくり構想演習」、「資源循環利用構想演習」の2つの演習を通じて養うとともに、森林総合監理士としての役割の理解と意欲の醸成につなげていくことを目的に実施しています。



(構想プレゼンの様子)

### (3) 森林総合監理研修

森林管理署等の林業普及指導員資格試験(※2)受験資格取得者を対象に、森林総合監理士等と連携した業務を行うために必要な林業知識や知識の研鑽を深め、森林総合監理士等の登録推進を目的とした研修です。

そのため、本研修では民有林支援に必要な知識のほか、「林業普及指導員資格試験(区分:地域森林総合監理)」の受験対策を行っています。

### (4) 将来に向けて

各地域で抱えている課題は様々であることから、その多様な地域課題の解決に向けた取組を推進していくため、引き続き研修等を通じて国有林の森林総合監理士等の人材育成に取り組めます。

将来、これらの研修を受講した森林総合監理士等が、各地域において森林・林業の課題解決に向けた検討を中心となって進め、具体的な対策に結び付けていくことを期待しています。

#### 用語解説

##### ※1 「森林総合監理士」

森林・林業に関する専門的かつ高度な知識及び技術並びに現場経験を有し、長期的・広域的な視点に立って地域の森林づくりの全体像を示すとともに、市町村、地域の林業関係者等への技術的支援を的確に実施する者として、林業普及指導員資格試験の地域森林総合監理区分に合格した者を登録するものです。

##### ※2 「林業普及指導員資格試験」

農林水産大臣が行う国家試験です。「林業一般」と「地域森林総合監理」の2つに区分されており、それぞれで受験資格が異なります。